

第2回研修会

本年度の研修会では、算数科との合同研修となり、小学校の先生方の研究発表を聞いたり、講演会の中で交流をしたりする場面があり、これまでと比べて大規模な研修会となりました。

1. 実践発表と協議

本年度は2部制の発表形式を取りました。5つの実践発表（小学校2、中学校3）の中から、自身の該当部会の発表と、事前のアンケートにより希望した発表の2つを聞き、小グループで協議を行いました。

	発表者	研究主題
1	佐々木亮（中郡小教諭）	子供が夢中になる算数科の学習 ～ICTの活用を通して～
2	中村佳樹（大平台小教諭）	双方向性のコミュニケーションから生まれる深い学び ～ペア活動や少人数のグループ活動を通して～
3	飯尾里美（入野中教諭）	主体的・対話的で深い学びを目指した協同学習の工夫 ～5つの要素を重視した協同的な図形指導～
4	柳瀬翔太（蜷塚中教諭）	批判的思考力を育む深い学び合い ～推論の土台の検討に視点をあてて～

事後アンケート（中学校数学）より

3 主体的・対話的で深い学びを目指した協同学習の工夫～5つの要素を重視した協同的な図形指導～

- 今後、我々が行っていかねばならない指導法についての発表であり、参考になった。
- 協同学習を効果的に活用していけるよう単元構想を改めて検討していきたい。
- 理論がとてもわかりやすかったです。5つの要素をそれぞれの実際に解釈しているところが良かったです。協同学習の前提としてより良い集団作りが必要となります。授業以外の生徒との関わりを大切にしたいと思いました。

4 批判的思考力を育む深い学び合い～推論の土台の検討に視点をあてて～

- 批判的思考力についてももう少し考えていきたい。現状の生徒たちにとって、とても必要なものだと思うので、できるだけ活用していきたい。
- 自分の授業の中でも「その根拠は何だろう」を意識させていきたいと感じた。
- △最近話題になっている批判的思考力について考えるきっかけになりました。しかし、生徒への問いかけ等がすごく難しくなってくると感じました。

その他

- 小学校の発表をきく機会は今までほぼなかったので貴重でした。
- 異校種の実践発表は特に興味深かったです。小学校でどのような取り組みを経て、中学生になったのか参考になりました。小学校での学びを生かしながら中学校での学びにつなげていきたいと思いました。



2. 授業づくり研修

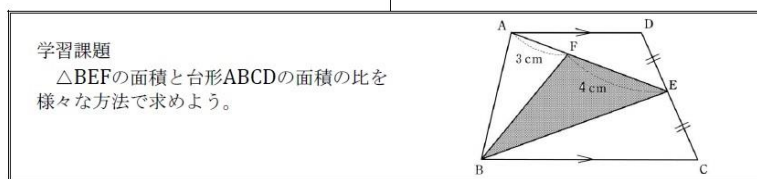
本年度は新たな取り組みとして、第3回研修会で行われる研究授業について、与えられた課題を使って、どのような授業展開が考えられるか話し合いました。

学年：2年生

題材：三角形と四角形

視点：「主体的な学び」「対話的な学び」

「深い学び」の実現



与えられた課題の難易度が高く、各校の生徒の実態に照らし合わせた中で考える指導案は困難を極めました。しかし、教師側が生徒の立場でグループワークを行ったことで、今後の授業で配慮すべき点や話し合わせる手順等について考える良い機会になりました。

3. 講演会

算数・数学でめざす数学的活動とデータの活用の授業のあり方

柁元新一郎氏（静岡大学教育学部 教授）



今年度も静岡大学教育学部の柁元新一郎教授に講演をお願いしました。講演の中では大きく2つの話を聞くことができました。

算数・数学でめざす数学的活動は「問題発見・解決の過程」として位置づけられており、数学的に問題解決する過程は、「日常生活や社会の事象」についてと「数学の事象」についての2つのサイクルが相互に関わり合って展開させていくことが重要であるとのことでした。それぞれ具体例も示して頂き参考となりました。

データの活用については、新指導要領により算数・数学に今後加わってくる指導内容について紹介して頂きました。また、データの活用を体験する演習として、データカードを使った活動を行いました。統計指導の先進国であるニュージーランドでは定番教材となっているようで、小中合同の小グループで協力し、付箋をカードに見立て、模造紙に1つのグラフを作り、特徴についてまとめました。

